

「つぐむ」 (162×130cm)

「妄想」 (60×60cm)

「虚ろ」 (53×45cm)

芸術研究科 造形表現専攻  
芸術表現領域 博士前期課程  
2025年3月修了

古賀 雄大

主査 南 聡 副査 Robert David Platt 国本 泰英

## 研究背景

私は感情を表現することが苦手である。他人と上手く話すことができない。それ以外にも多くのコンプレックスがある。それにより、自分のことを好きになることができない。作品の中の人物は私の代弁者である。私の代わりに様々な感情を吐き出してくれる。醜いもの、くだらないものでも作品にすることで少しだけ受け止めることができる。私は私のためだけに絵を描く。

## 研究目的

感情を吐き出し楽になるため、時にはその感情を整理し、見つめ直すために描く。言葉にするのも憚られるような、または言葉にするまでもない主にネガティブな感情を価値のあるものに昇華させる。それらのやり場をつくってあげたい。しかし、自分の考えを他者に理解して欲しいとは思わない。言いたいことは多くあるが、伝えたいことは何一つとしてない。あくまで吐き出すことが目的である。

## 研究概要

「つぐむ」  
(162×130cm)紙本彩色「妄想」  
(60×60cm)紙本彩色「虚ろ」  
(53×45cm)紙本彩色

## 成果・まとめ

大学院での日本画制作を通して、技術の向上は勿論、自分と向き合い感情を整理することで、人間的に少しは成長できたように思う。それによって欠陥がより明確に見えて苦悩することもあるが、それによってより良い作品が生まれると思えば少しは救われる。少しずつではあるが、ネガティブな感情をコントロールできるようになったように感じる。技術的にも人間的にも成長できるよう、今後も試行錯誤しながら制作に邁進したい。



## 指導教員コメント

人間の感情を中心としたテーマで制作 何も言いたいことがないこと、その虚しさを表した。見る側の感情と深く響きあう作品となっている。

福岡アジア美術館 交流ギャラリー 2025年1月16日-1/21 個展開催

南 聡